

BMC 海外派遣報告書

生物科学専攻 生体分子機能学研究室 D1 島田敦広

派遣先:台湾国立清華大学

期間 :2009 年 5 月 12 ~ 2009 年 5 月 16 日

2009 年 5 月 12 から 5 日間、台湾国立清華大学のある新竹を中心に、清華大学の学生との交流と、研究発表及び情報収集のために滞在した。最初、台湾の町並みは想像していたほど異国情緒を感じさせなかった。しかし、原付の多さや繁華街に漂っている匂いなど、初めて日本から足を踏み出した身としては、十分に異国だった。

研究発表は、口頭発表とポスター発表の 2 部構成になっており、台湾到着 2 日目から 3 日目午前中にかけて口頭発表が行なわれ、3 日目の午後からポスター発表であった。個人的なことを言えば、学会における口頭発表は日本語ですら行なったことが無かったため、準備から非常に時間がかかった。日本語でもそうだが、スライドの並びや図の見せ方など、特に試行錯誤した。自分の拙い英語でスライドを説明しなければならないので、なるべく一枚一枚のスライドを簡潔に、特に重要なことはスライド中に書くように心がけた。

自分の口頭発表自体は、質問が思ったよりたくさん来たので、ある程度会場にいた聴衆には伝わったと思う。ポスター発表でも、たくさんの学生や先生方がポスターを見に来てくださった。日本での学会では何度かポスター発表をおこなっていたが、今回の学生交流でのポスター発表は日本と少し違っていた。具体的には、日本ではポスター発表の時間が偶数番と奇数番の発表者ごとに明確に区切られているのに対して、今回はそれが無かった。しばしば、自分の聞きたいポスター発表が自分と同じ偶数番(もしくは奇数)のために、聞けないことがあるが、それが無かった。しかし、時間が区切られていないので、どのタイミングで自分のポスターを離れていいものかも少し迷った。その分ポスター発表の時間がとても長く取られていたので、充分自分の興味のあるポスター発表は見る事が出来た。

口頭発表、ポスター発表通じて、自分の研究に関して非常に多くのアドバイスを頂いた。研究結果に関して自分とは違う解釈や、結果に対する考察など、現在ここまでの研究結果を論文にまとめている身としては、とても役に立った。また、口頭発表終了後やポスター発表において、多くの先生方や学生が、既に論文になっているのか、と尋ねてきたことも、自分の研究に対するモチベーションをととても高めてくれた。

台湾滞在中、朝から夕方までは大学キャンパスでの研究発表等に費やしていたが、夜は時間が空いていたため、毎夜現地の学生と学術的なことに限らず非常に多くの事について語り合った。英語が元々苦手だったため、ほとんど片言に近い単語の羅列でしゃべっていたが、一生懸命聞き取ってくれて、どうにかコミュニケーションが取れた。むしろ、今回の海外派遣では、こうした初対面の人間と英語で臆せず話す姿勢が少し

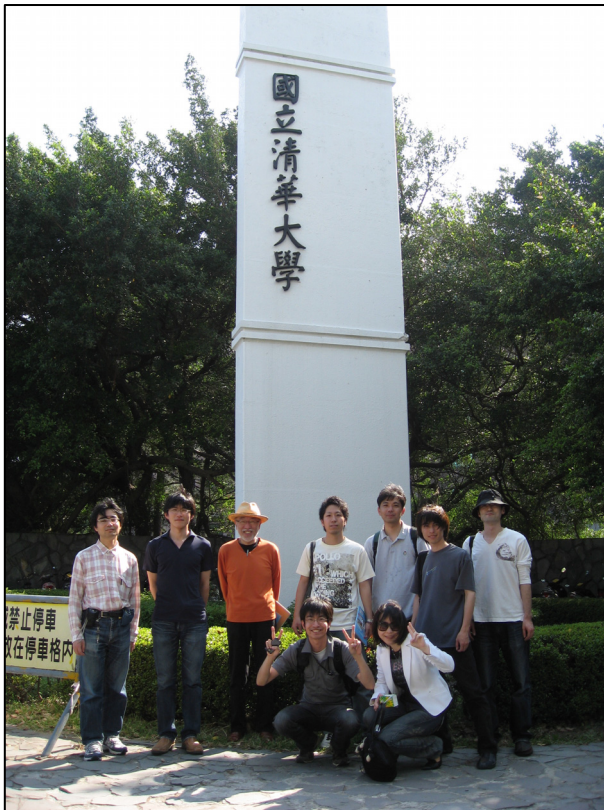
身につただけでも、非常に収穫の多いものであったと思う。日本に帰ってきてから、メールでやり取りをするが、やはり自分の英語力の低さを痛感する。そのため、今では少しずつ英語のリスニング等の勉強を始めた。今回の経験は、これからの自分の研究活動にはもちろん、人生においてもとても重要な意味を持ってくるだろう。

最後に、このような機会を与えてくださった BMC プログラム関係者の皆様、特に荻原教授と事務補佐の井上様、さらに、BMC プログラムに推薦してくださった倉光教授に、この場を借りてお礼申し上げたい。



口頭発表会場の風景。

想像していたよりもずっと広い教室であった。



清華大学正門にて集合写真。

到着初日に、日本からの BMC 参加皆で撮った写真。